

斜里町の CO₂ 排出量等の現況について

(1) 部門別にみる斜里町の CO₂ 排出量 (速報値^{※1})

直近の現況年度 (2019 年度) の斜里町域から排出される二酸化炭素 (CO₂) 排出量は およそ 179 千 t-CO₂ です。これは、基準年とされる 2013 年度と比較しておよそ 16%の減少となります。

	2013 年度 (基準年)	2019 年度 (現状年)	
	排出量 (tCO ₂ /年)	排出量 (tCO ₂ /年)	基準年比 (2013 年度)
産業部門	122,482	102,885	-16.0%
業務その他部門	28,718	20,020	-30.3%
家庭部門	29,945	27,369	-8.6%
運輸部門	31,152	28,715	-7.8%
廃棄物分野	0	0	-
合計	212,298	178,988	-15.7%

現況年 (2019 年) を排出部門に見ると、産業部門が約 6 割で最も多く、次いで運輸部門、家庭部門と続きます。産業部門が非常に大きいことが斜里町の特徴といえます。

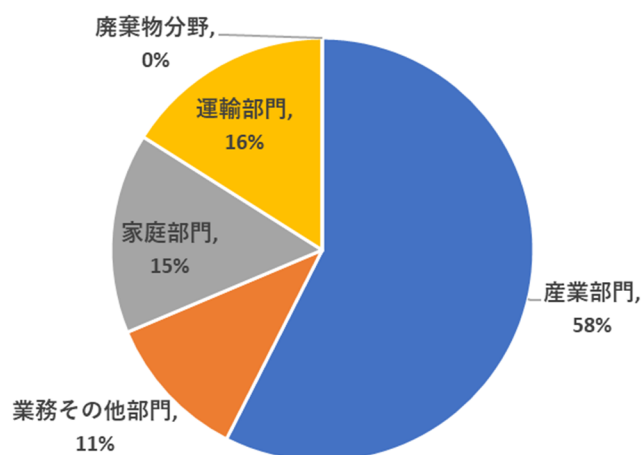


図 1 2019 年度の斜里町 CO₂ 排出量の分野別割合

(2) 目標年（2030年）を見据えた必要削減量について

国の目標に準じて、基準年比で2030年度46%削減を目標とすると、斜里町の2030年度CO₂排出量は114千t-CO₂より小さくなる必要があります。この目標の達成に向けて、省エネや再エネ導入等必要となる対策を検討していくことが必要です。

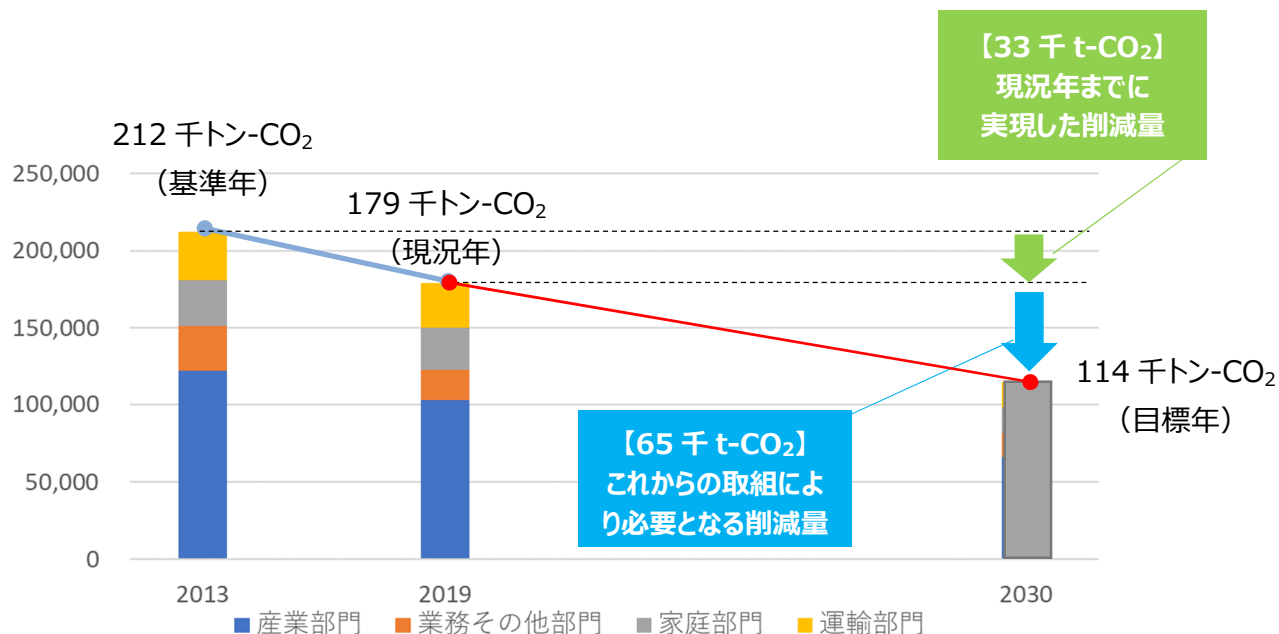


図2 目標年に向けて必要となるCO₂削減量

これからの取り組みにより必要となる65千t-CO₂の削減量を、仮に既存電力を太陽光発電施設に代替することで実現することを想定すると、およそ90MW^{※2}の太陽光発電施設が必要となります。現在、斜里町内にある太陽光発電施設規模は計13MW^{※3}程度ですので、現在の6倍以上もの施設導入が必要ということになり、その実現は非常に困難です。

そこで、再生可能エネルギー導入はもちろんのこと、省エネルギーにつながる各種取組や、日々の暮らしにおける行動変容の積み重ね等、多様なアプローチからの取り組みを検討する必要があると考えます。

※ 1 : 排出量が大きい産業部門については、より現状を反映すべくヒアリング調査を今後実施して、数値補正を検討する予定。また、家庭部門については 8 月に実施したアンケート結果を踏まえて、同様に数値補正を実施する予定。

※ 2 : 北海道電力 2020 年度調整後 CO₂ 排出係数 0.549 kg-CO₂/kWh、また設備利用率を 15%で想定して、以下の通り試算した。

$$90\text{MW} \times 365 \text{日} \times 24 \text{時間} \times 0.15 \times 0.549 \approx 6 \text{万} 5 \text{千} \text{t-CO}_2$$

※ 3 : 自治体排出量カルテ「導入実績に関する情報」より。